

**平成 24 年度第 4 回**

**宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録要旨**

平成 24 年 1 月 16 日開催

## 平成24年度 第4回 宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日 時】平成24年11月16日(金) 午後1時35分～3時35分(2時間00分)

【場 所】宝塚市クリーンセンター 3階 会議室

【出席委員】委員17名中14名。

委員の過半数以上の出席があり、宝塚市廃棄物減量等推進審議会条例

第6条第2項の規定により会議は成立

出席委員は次のとおり

中丸会長、原田副会長、池田委員、中野委員、稻野委員、藤井委員、菊川委員、金岡委員、橋委員、戸川委員、国山委員、頼岡委員

【事務局】環境部長、クリーンセンター所長、業務課、管理課、

(株)日本環境工学設計事務所

【傍聴者】なし

### 1 開会

部長あいさつ

### 2 宝塚市一般廃棄物処理基本計画について

事務局：(第3章について資料説明)

中丸会長：第3章について意見があればお願ひしたい。

原田委員：トレンド予測とはどのような内容か。

事務局：新しい取り組みを考慮せずに、これまでのごみ量の実績で今後も推移するものとして予測式に当てはめて推計したものである。

藤井委員：災害対策として阪神淡路大震災ではどのように対処したのか。

災害が発生した際のごみ処理の目途はついているのか。

事務局：クリーンセンターを1日で復旧し処理を開始した。

瓦礫等は碎石会社等民間の土地を借りて、仮置して処理した。

再生できるものは再生し、焼却処理できるものはクリーンセンターで、それ以外は産業廃棄物処理業者等に協力してもらいながら処理した。処理が完了するまで約2年を要した。(今後の処理については、第4章にて説明。)

池田委員：サーマルリサイクルは減量化にカウントされないのか。

高齢化、少子化等によるごみの減量化がどの程度になるか予測できないか。

事務局：サーマルリサイクルは減量化にカウントされない。

スーパーなどでは、小分けパックの食品が目立つようになり確かに時代を反映した販売方法になっている。これにより、ごみが減ることは考えられるが、どの程度減量するかは明確にできない。一方大人の紙おむつが多く出るようになっており逆に増える懸念がある。今後、解決すべき課題である。

がれき等は碎石会社等民間の土地を借りて、仮置して処理した。

原田委員：リユースを進める目標は設定しないのか。

事務局：再使用の取り組みも推進する計画としている。現状では、年2回、福祉団体と協働で粗大ごみの再生品の販売会を実施しており、今後も継続する。

原田委員：ガレージセールなど地域で行われている活動を支援するような形にして、経費をかけないような形で取り組みを進めてはどうか。

事務局：リユースについては広報で譲ります、譲ってくださいとゆう取り組みを推進している。

今後は、ガレージセール等の取り組みに対する支援も検討する。

藤井委員：学校給食の残飯について、豊中市では残飯をリサイクルする施設を整備して堆肥化して有効利用している。

学校では環境学習に力を入れており、給食の残りを出さない等の教育はどうなっているのか。

事務局：学校教育の中で食べ残しは減らすよう努力している。

以前、実験的に生ごみ堆肥化の取り組みを行った。できた堆肥がうまく循環しないなど課題が残った。こうした経験から学校給食の堆肥化に取り組むことは困難と考える。

中野委員：コンポストの場合は、（堆肥化容器等の購入に際して）補助するだけでなく、指導（ケア）も必要である。

事務局：室内用の堆肥化容器を普及しているがマンションでは、できた堆肥を使いきれない。

中丸会長：堆肥化の実態を調査して、今後の取り組みに活かしていく必要がある。

金岡委員：いい堆肥をつくるには時間がかかる。簡単にできるものでない。

使える堆肥を作るには促進剤や水分調整剤などが必要である。

また、有効に循環させるシステムづくりも必要である。

中丸会長：堆肥を循環させることが前提なので、それらも踏まえて推進するべきである。

事務局：（第4章について資料説明）

中丸会長：第4章について意見があればお願いしたい。

中野委員：プラスチックの分別が徹底されるよう出前講座を推進して欲しい。

田原市では生ごみを炭化して有効利用している。こうした事例を参考に生ごみを燃やさない取り組みを推進すべきである。

事務局：取り組みの1で市民・事業者・行政のパートナーシップに基づく取り組みを推進することとしており広報・啓発を推進する。

プラスチックの分別を推進する際も分別に関する説明を行い、その後分別の徹底とごみ減量に効果が發揮された。

こうした実績からも積極的に市民への説明会、出前講座を開催する等して啓発を図りたい。

藤井委員：出前講座に推進員も参加するように配慮願いたい。

池田委員：計画が達成できたときとできないときについて、新施設がどの程度の規模になるのか、市民にどの程度負担になるのか、有料化はどのようなときに実施するのか等を明確にすべきではないか。

中丸会長：「みえる化」することは、大切である。ご意見を参考にして欲しい。

事務局：(第5章について資料説明)

中丸会長：第5章について意見があればお願ひしたい。

中野委員：プラごみの分別が徹底されるよう出前講座を推進して欲しい。

藤井委員：生きびんとは、空きびんのことか。

事務局：リターナブルびんを示す。表現を改める。

国山委員：リターナブルびんについては5円程度なので、リターナブルする気にさせる料金設定にして欲しい。

頼岡委員：市民との協働に係る取り組みはグリーンデー以外にあるか。

事務局：市内一斉清掃のほかに自治会ごとに独自の取り組みを行っている。

こうした活動を支援・応援するような取り組みを追記したい。

菊川委員：雑紙を資源として出してよいことを認識していなかった。

自分に限らず雑紙を出してよいことを理解している市民は少ないと考える。

神戸市等を参考に、雑紙の出し方をわかりやすくして欲しい。

中丸会長：本市は実行の段階に達しており、わかりやすく実行しやすい表示の仕方（プレゼンテーション）が重要になってくる。どうしたら実行してもらえるか具体的な提案（工夫）が必要である。

原田委員：役割分担を横串に刺して連携させる仕組みはあるのか。（知恵を出し合うような機会）

中丸会長：実行可能であれば、その方向性を示すべき。

藤井委員：3R等などについてわかりやすい表現をするようにして欲しい。

池田委員：情報のシェアのところで同じ目的を持った人が情報を共有できるようにすることが重要である。それができる時代でありツールも豊富にある。事業者、NPO等を活かし行政がこれを支援するような形で情報戦略を推進して欲しい。

中丸会長：情報戦略、ネットワーク戦略、情報共有、一緒になって取り組んでいくことが重要である。行政の押し付けでは市民・事業者は動かない、力を合わせながら取り組む姿勢が一番大切である。

### 3 その他

事務局：11月中プラスチックの件でパブリックコメントを行っている。修正がある場合は修正案を本審議会で審議し完成したい。

次回の開催については12月上旬を予定している。日程が決まり次第報告する。

上記議事録について議事内容と相違ないことを承認し、ここに署名押印する。

平成24年11月16日

議事録署名人

戸川 進



印

議事録署名人

稻野 秀子



議 長

中丸 寛信



印